

4

会報

2017.5



写真 = 市大広報室提供

大阪市立大学工学部都市会

魅力ある建設コンサルタントと担い手確保

八尾 博彦

(都市会副会長、昭和52年卒)
(株 修成建設コンサルタント)



大阪市立大学工学部都市会が発足して早くも3年近くの月日が経過しました。私は昨年の都市会総会で副会長に任命されました、昭和52年卒の八尾でございます。微力ではございますが、都市会副会長として精一杯活動していきたいと思っておりますので都市会会員の皆様の御支援、ご協力よろしくお祈いします。

私が入学した昭和48年当時は田中角栄の「日本列島改造論（昭和47年発表）」ブームもあり、工学部の中でも土木工学科は人気学科の一つでありました。しかしながら、卒業時には第2次石油ショックの影響が収まらず2年連続の就職難に遭遇し、大学院への進学等進路変更を余儀なくされた同級生もいました。その影響で昭和52年卒業の同級生（昭和48年入学）は22名と約半分となりました。現在年末に開催している有志の同窓会も卒業年次ではなく昭和48年入学の同級生で集まっております。

私は教授の推薦状と経営者の温情のおかげで運良く現在の建設コンサルタントに就職し、現在まで建設コンサルタント一筋に40年間勤めてきました。現在建設コンサルタントは従来の調査設計業務に加え、発注者のパートナー及びエージェントとして多種多様な提案を行い、発注者の意志決定や住民等の合意形成におけるアドバイス、建設から維持管理及び運営まで一貫して係わる業務や事業執行に関するマネジメント等も実施しています。

また、近年自然災害のリスクがますます増大していく中で、社会資本整備の重点施策である国土強靱化、防災・減災対

策の推進に向け、建設コンサルタントに求められる役割が更に重要になってきています。

この様な状況の中で建設コンサルタントは大きな課題である人材の育成、確保に向けてより一層の労働環境の整備、改善に取り組んでいるところです。具体的には長時間労働の解消やワークライフバランスの推進等を積極的に進めています。

我々が入社した時代には長時間残業は当たり前で、特に1月～3月にかけては休日出勤や徹夜作業が日常茶飯事でしたが、新入社員としては最終的に業務成果が上がっていたのかは疑問でした。当然徹夜の次の日は睡眠不足で十分に頭が働きませんし、若いとはいえ健康状態も良好とはいえ、ストレスも溜まりました。今思い出してみると、職場全体の雰囲気や上司の長時間残業に影響を受けて仕事に従事していたように思えます。

自分自身の判断で業務を進めていく立場になると顧客の要求に応えることや技術力の向上を図るためになかなか長時間残業から解放されませんでした。仕事のやりがいや技術士資格の取得などを考慮すれば、一番充実した社会人生活を送っていた時期ではないかと思えます。

現在経営者として社会状況を考えれば社員対応だけでなく会社全体として長時間残業削減に取り組んでいかなければならないと思っています。当然社員の健康が一番大切で家族も大事にしなければなりません、そして個人個人がお互いに尊敬しあい、思いやれる職場環境づくりも重要です。

長時間残業の削減も含めた社員のワークライフバランス支援を具体的に進めるためには、次の三つの取り組みが不可欠であると考えています。

第一は仕事管理や時間管理など人材マネジメントと働き方の改革、第二はワークライフバランス支援に関わる制度を導入するだけでなくその制度が活用できるようにすること第三は社員の多様な価値観やライフスタイルを受容できる職場風土の構築です。

また、社員の時間制約に対応するためには、仕事に投入できる時間の総量を所与として時間総量の中で仕事の付加価値を高める人材マネジメントや働き方への移行が求められています。具体的には、①無駄な業務の削減、②仕事の優先順位化、③過剰品質解消、④情報共有など仕事の見える化など、職場マネジメントや働き方の改革が不可欠であります。

今後、優秀な社員を獲得し、その社員が長期間にわたり活躍する企業となるためには「ダイバーシティマネジメント」と「ワークライフバランス支援」は必要不可欠であると考えています。

最後に建設コンサルタントは今後増々必要となる社会資本整備の推進に重要な役割を担っているやりがいのある職業であると私は思っています。ぜひ現役の学生の方々には女性社員の活躍推進も含めて魅力ある職業に全力で変わろうとしている建設コンサルタントに興味を持っていただき、就職先の有力候補として考えていただくことを強く望んでいます。

都市学科の近況

平成29年度学科主任
西岡 真稔



はじめに

都市会会員の皆様には、学外実習の受け入れや、業界説明会への協力、さらには新入生歓迎に対する助成など通じ、平素から種々のご支援を頂いており、厚くお礼を申し上げます。お陰様で、今年の3月には都市学科の5期生として44名の学生が卒業し、また新たに53名の新入生を迎えることができました。これもひとえに都市会会員の諸先輩方とともに築かれた都市学科の伝統と、諸先輩方のお力添えによるものと深く感謝申し上げます。

卒業生・修了生の進路の概要

平成28年度の学部卒業生の進路は約4分の3が前期博士課程に進学し、4分の1の学生が社会人となりました。学部卒業生の就職先は、公務員が4名、民間企業が6名です。また大学院前期博士課程のうち都市会の学生会員として所属する学生の修了者は33名であり、その就職先は公務員が5名、民間企業25名となりました。民間企業の就職先はゼネコン、コンサルタント、道路・鉄道、製造業、エネルギー関連企業など多岐に渡ります。卒業生。修了生の進路は年ごとに若干の違いはありますが、今年も概ね例年通りの結果となりました。これらの卒業生は、およそ一ヶ月が経ち、そろそろ職場にも慣れて来た頃だと思いますが、自らの周囲を見渡す余裕もできて様々な心配事も抱える頃でもあります。都市会会員の皆様におかれましても、温かな目で見守って頂けると幸いです。

博士（工学）の授与者

大学院の後期博士課程（都市学講座）では、平成28年度は次の2名の方が博士（工学）の学位を授与されました。

- 平成28年9月、白倉 誠氏（主査：山口 隆司教授）「鋼 I 桁橋の腐食した桁端部の耐荷力とその簡易評価法に関する研究」
- 平成29年3月、山野 貴司氏（主査：重松 孝昌教授）「杭で支持された新型離岸堤の開発とその局所洗掘対策の開発に関する研究」

学生の活動・受賞など

主に前期博士課程に所属する学生達の受賞ですが、研究発表やコンペへの作品応募など多方面へ積極的に活動し、個人やチームとしての成果を高く評価して頂きました。（平成28年3月～平成28年12月の期間の各種の受賞、学年は受賞当時）

- 平成27年度空気調和衛生工学会近畿支部学術研究発表会／奨励賞：笠島 佳明君（修士修了）
- 廃棄物資源循環学会 平成28年度春の研究発表会／最優秀ポスター賞・林健太君（M1）、優秀ポスター賞：若山 聖君（M1）
- 土木学会関西支部年次学術講演会／優秀発表賞（歩行者・歩行者空間）：佐美三 幸典君（学部卒）、優秀発表賞（維持管理）：小林 駿祐君（M1）、優秀発表賞（鋼構造）：杉本 悠真君（M1）
- 日本都市計画学会第14回関西支部研究発表会／奨励賞：向井 雅人君（M1）
- 第36回交通工学研究発表会／研究奨励賞：沢田 有美恵さん（M2）
- 第51回地盤工学研究発表会／優秀論文発表者賞：張 林松君（修士修了）
- 2016年度日本建築学会大会 情報システム技術委員会／若手優秀発表賞：山本 遼君（M1）
- 第7回Japan Steel Bridge Competition 2016（後援団体：一般社団法人日本鉄鋼連盟：一般社団法人日本橋梁建設協会）日本全国の大学と高専から21チーム参加、本学からは橋梁、構造及びコンクリート両研究室よりM1とB4で2チーム参加総合3位、架設2位、構造3位、美観1,2位、の5賞を獲得。
- 「第16回 コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム」／優秀論文賞：黒木 唯真君（M2）
- 大阪府、府立江之子島文化芸術創造センター主催コンペ「大阪・関西での

『滞在』を考える～観光・定住促進の切り札とは？～」／大阪観光局長賞：金田 聖輝君（M1）、中川 真紀子さん（B4）らのチーム、芦沢竜一賞：川江 祐司朗君（M1）、畠田 恵さん（B4）らのチーム

- 第63回土木学会海岸工学講演会／海岸工学論文奨励賞：西尾 直人君（修士修了）
- 歴史的空間再編学生コンペ実行委員会・金沢市主催「歴史的空間再編コンペティション2016～第5回「学生のまち・金沢、設計グランプリ」～」／作品入選：金田 聖輝君（M1）、川江 祐司朗君（M1）、松平 偉栄君（M2）、村松 陽野木君（M2）らのチーム
- 日本建築学会近畿支部都市計画部会主催「第7回アーバンデザイン甲子園」／最優秀賞（優勝）：川江 祐司朗君（M1）、金田 聖輝君（M1）、大村 りかさん（M1）、芳永 有梨さん（M1）、向井 雅人君（M1）、宮地 聡君（M1）、畠田 恵さん（B4）らのチーム作品
- 土木学会景観・デザイン委員会、景観開花実行委員会、東北大学平野研究室主催「景観開花. 2016」／特別協賛企業賞（ドーコン賞）：川江 祐司朗君（M1）、金田 聖輝君（M1）、大村 りかさん（M1）、芳永 有梨さん（M1）、向井 雅人君（M1）、宮地 聡君（M1）、畠田 恵さん（B4）らのチーム作品

教員の異動・活動

3名の教員の異動がありました。日野 泰雄 教授は、平成29年3月に定年退職されるとともに名誉教授の称号を授与されました。平成28年度まで4年間に渡り工学研究科長の重責を担われ、また平成28年度は特命副学長＜人事委員会担当＞を務められるなど、退職の日まで大学に献身されました。学務に多忙を極められる中で、「交通システム（第2版）」（オーム社、平成29年3月、日野・内田ほか）も出版されております。この出版に対して日野 泰雄教授・内田 敬教授は、大阪市立大学教育後援会優秀テキスト賞を受賞されました。平成29年4月から、嘉名 光市 准教授が教授（都市計画）に昇任されました。昇任に先立ち嘉名教授は日本都市計画学会において石川賞（水

都大阪のまちづくり)を受賞(共同受賞、平成28年5月)され、都市づくりの実践的取組が高く評価されています。佐久間 康富 講師は、平成28年2月に、「田園回帰3 田園回帰の過去・現在・未来 移住者と創る新しい農山村」(農文協)を出版されるなど学内外で広く活躍されておりましたが、平成29年4月より和歌山大学システム工学部環境システム学科へ准教授として赴任されました。今後のご活躍を祈念するとともに、また新たな赴任先が近隣大学でもあり、今後も教育・研究について本学科との連携が継続することを願っております。

おわりに

最後になりますが本学をとりまく状況について報告しておきます。大阪府立大学との統合については、副首都推進本部会議(H28/4/19)において、府市の大学担当部局と両大学の四者による「新大学設計4者タスクフォース」が設置され、同会議(8/22)にて、4者タスクフォース事務局から「新大学について一検討経過報告」が出されました。そこで示された4つの戦略領域をベースに、それらの実現に向けた諸条件などを具体的化するため、10月から両大学の教員を中心としたワークショップが設置さ

れ検討が開始されたところです。ワークショップの重要な柱の一つが「スマートシティ/データマネジメント」であり都市学科による貢献が求められるところでもあります。平成34年度の大学統合を見据えつつ検討を進めることになっており、その道筋は未だ不透明な状況ですが、都市学科教員の知恵を絞って、社会からの要請に応じていく所存でございます。都市会会員の皆様におかれましても都市学科への忌憚のないご指導・助言を頂くと共に、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

研究室だより

安全防災領域

構造及びコンクリート工学分野

構造及びコンクリート工学分野は、鬼頭宏明教授(専門:複合構造)と角掛久雄准教授(専門:コンクリート構造)の2名の教員で担当しております。また、今年度は、昨年度の前期博士課程3名が鹿島建設(株)、(株)長大、首都高速道路(株)と様々な分野に旅立ち、4回生5名全員が進学したため、前期博士課程7名、4回生5名、研究生1名(留学生)の13名となり、昨年度よりやや学生の数が増え、より幅広い研究活動を実施して行きたいと思っております。

分野としての教育は、旧構造工学研究室および材料研究室の担当範囲であった構造力学、建設材料、コンクリート構造に加えて耐震を主として担当しており、構造分野における基礎から応用までの教育を実施しております。

研究活動においては、構造力学およびコンクリート材料・構造学を基礎として、鉄筋コンクリート(RC)構造や鋼・コンクリート複合構造を、その対象として取り組んでいます。大きな研究テーマのキーワードは①合理的構造物の開発、②コンクリート構造物の補修・補強、③コンクリートの疲労劣化の3つです。

これらを実験やFEM解析などにより検討を行っていますが、具体的な例としては、

- ① 道路橋における鋼桁のRC床版劣化における鉄筋の腐食対策として、鉄筋を極力減少させる構造の開発、また、鋼桁の支点上の補強法として通常のリブに代わる複合構造を用いた構造の開発を行い、鋼桁橋の合理的かつ長寿命化を目指しております。
- ② 高齢化に伴い需要の高くなる既存構造物の補修・補強に関しては、RC部材に対する有機繊維や無機繊維などを用いたメッシュや短繊維補強モルタルによる合理的な補修や補強方法の開発を行っております。また、併せて、コ

ンクリート表面に塗布する含浸系材料による防水効果のみならず、補修効果を持たせる材料の開発を行っており、これらによってコンクリート構造物の維持管理の低減と長寿命化を目指しております。

- ③ コンクリート構造物において、水の影響は大きく、劣化を促進させることになり、様々な構造物で、劣化の事例が報告されております。しかし、水の影響による疲労劣化は定量化されていないため、その現象を解明するとともに定量化することを目指しております。昨年度は風車基礎の接合部を対象としてコンクリート構造物の補修、補強、アップグレード論文報告集にて発



金沢大学との研究交流会にて

表した学生筆頭の論文が優秀論文賞を受賞しました。

また、昨年度は研究室としては、ゼミナールを月1、2回程度開催し、その他に現場見学会、大阪府・市などの交流および金沢大学との研究交流を行いました。これらの活動により、学生にとっては様々な刺激を受け、有意義な時間を過ごしています。

インフラ構造物の維持管理や長寿命化は喫緊の課題であり、実践的な教育も含めて、社会に出て役立つ学生を育てていきたいと思っておりますが、卒業生である先輩方のご支援も承りたいと思っております。学生教育のみならず、研究活動においてもご支援を下さいますようお願いいたします。



卒業式後の謝恩会時の集合写真



供試体製作時の1コマ

応用構造工学分野

応用構造工学研究室／橋梁工学研究室では、橋梁とくに鋼橋に関する調査研究をすすめています。これまでも明石海峡大橋や天保山大橋をはじめ関西の多くの橋梁の設計や建設、維持管理に関する調査研究を行ってきました。現在では、阪堺大橋などの都市内橋梁を対象として共同研究を進めているところです。大阪府南部の市町村と連携しインフラ構造物の維持管理に取り組む“泉北及び泉南地域維持管理連携プラットフォーム”、大



Japan Steel Bridge Competition 2016
(前橋工科大にて)

阪市建設局橋梁課と橋梁技術に関する情報交換・技術支援に取り組む“大阪市橋梁技術交流会”など多くの連携活動を通じ、社会貢献にも取り組んでいます。

2015年4月に松村政秀先生が京都大学准教授として転出され、早いもので2年がたちました。現在、教員1名、客員教授2名、博士課程4名（内2名は社会人：(株)駒井ハルテック 岑山友紀さん、川田テクノシステム(株)上野勝敏さん）、修士課程12名、学部生2名の21名で、勉学・研究に取り組んでいます。

教育面では、橋梁の現地計測や他大



阪堺大橋における夜間計測

学・他機関での実験の実施をはじめ、国内外のシンポジウム・会議における研究成果の発表、近畿技術事務所主催の“ふれあい土木展・研究室対抗関西土木リーグ”や全国の構造系教員からなるJSBC実行委員会主催の“ジャパンスチールブリッジコンペティション(<http://bricom.jp/>)”への参加など学生の学外活動も応援しています。また、近年では、修士学生の海外インターンシップ等についても積極的に支援しており、トルコのイズミット湾横断道路橋建設現場に約10ヶ月（2015年5月から2016年2月）、ドイツ



泉北及び泉南地域維持管理連携プラットフォーム田尻スカイブリッジ現場見学



2016年 ゼミ旅行 阿波しらさぎ大橋（徳島）

陸軍大学に免震支承の研究を行うため、約1年（2016年4月から2017年3月）、そして、2017年5月からはミャンマーに橋梁工学の教育・研究状況や鋼橋プロジェクトの現状調査を行うため、現地研究生として留学しています。

研究面では、大学では大型載荷実験装置、3次元振動台などの実験設備と当研究室で開発をすすめている非線形解析プログラムや汎用プログラムを駆使し、実験と解析との両面から研究を展開しています。具体的な研究テーマは研究室のHP (<http://brdg.civil.eng.osaka-cu.ac.jp/index.html>) を参照下さい。現

在、橋梁に関連する研究課題は多岐にわたっており、道路管理者、民間企業、他大学などとの共同研究や産官学連携事業、学協会の活動にも積極的に取り組んでいます。卒業論文・修士論文では「合理的な橋梁」、「地震に強い橋梁」、「長持ちする橋梁」、「新しい橋梁・構造形式・構造部材の開発・試設計」に関するテーマを中心に、UAVを用いた橋梁点検システムの構築や接合部材の現場取り替え工法の検討、合成桁の床版取り替え工法の検討など橋梁の維持管理・大規模更新に関連したテーマにも力を入れています。

研究室の近況はフェイスブック

(<https://www.facebook.com/ocukyoryoken#!/ocukyoryoken>) にて随時情報発信しておりますので、そちらもご覧いただくと幸いです。



Yadanarpon橋（マンダレイ，ミャンマー）実橋載荷試験

地盤工学分野

2017年度の地盤工学分野は、大島昭彦教授（専門：地盤環境工学）と山田卓准教授（専門：地盤防災工学）の2名の教員と15名の学生（大学院後期博士課程1名、前期博士課程8名（M2：3名、M1：5名）、4年生6名）で構成されています。

学部での教育は、地盤工学の基礎科目として土質力学I・同II、土質力学演習を、応用科目として、地盤基礎工学、地

圏環境工学、耐震工学（地盤の動的性質を担当）を提供しています。土質力学I・同IIでは、土の状態量、透水、圧密、締固め、せん断、斜面安定などのオーソドックスではありますが、土木技術者にとって必須の土質力学の基礎とその理論を学生に習得させることを心掛けています。特に、土の圧密理論とせん断については詳細かつ高度な内容を伝統的に提供し続けており、全国的に見ても特色のあるものとなっています。地盤基礎工学では、土圧、支持力、地盤改良や地

盤調査法などの土質力学I・同IIで学んだ知識を応用した土木・建築の実務に必要な知識を中心に教育しています。また、実験科目では砂の透水試験と粒度分析、粘土の物性試験と圧密試験、一面せん断試験などの基礎的な土質試験を実施する機会を設け、実際の土に触れながら学生の土質力学の学習度を高めるとともに土木技術者に必要な経験を積む場としています。

大学院での教育は、地盤工学特論と地盤防災工学特論の二つの講義科目と、二



2016年9月の熊本県益城町での地盤調査（調査会社の方とともに）

つの特別演習を提供しています。地盤工学特論では、土のせん断試験論、液状化予測、宅地の基礎工法の実務的な意義を中心に講義しています。地盤防災工学特論は地盤に関する斜面防災と地震防災を主題として法制度や技術指針の解説を中心とした講義内容となっています。特別演習では、実例を基に、一次元圧密解析と地盤地震応答解析のプログラミングと解析を学生が自ら実施する内容です。大学院の教育は、学術的かつ実践的内容であり、学生が知識と技術の両方を習得することを目指しています。

次に、地盤工学研究分野では現在、以下の内容の研究に取り組んでいます。

① 関西圏の地盤特性：

- 地盤情報データベースと基準地盤調査結果に基づく250mメッシュ地盤モデルの作成
- 上記モデルのWebでの公開（関西圏地盤情報ライブラリ）

② 新しい地盤調査方法の開発：

- サンプルングとサウンディングを同時に行う調査技術の開発
- 動的コーン貫入試験のロッド摩擦力の実測による打撃回数補正方法の検討

- サウンディング時の音測定による土質判定技術の開発
- 戸建住宅地盤の液状化判定のための地盤調査方法の開発
- ③ 地盤環境の問題：
 - 地下水位低下による地盤沈下量の予測と液状化対策効果の予測
 - 地下水の有効利用方策の検討
- ④ 地盤防災の問題：
 - 大阪・神戸地域の地震時の揺れやす

- さの予測と沖積砂層の液状化危険度の予測
- 浅層改良による液状化対策工法の開発
- 柱状地盤改良の施工管理技術の開発
- ⑤ 粘土の圧密問題：
 - 浚渫粘土埋立地における圧密沈下予測手法の開発
 - 地下水位変動に伴う洪積粘土の繰返し圧密挙動の把握



地盤調査後のゼミ旅行（熊本県阿蘇地方）

これらの研究テーマは全て各々が関連しており、現場での地盤調査を主体とした研究を進めています。上記テーマ①～⑤については関西圏の地盤を中心に、全国各地で地盤調査を継続的に実施し、成果を上げてきました。近年は、地盤工学会関西支部の研究委員会と連携して南海トラフ地震による関西圏地盤の液状化危険度予測や揺れやすさマップの作成を行い、積極的に研究成果を社会に発信しております。最近の活動としては、研究室メンバー全員での地盤調査が恒例となっており、北は北海道、南は熊本県まで全国各地の地盤で多数の民間会社と共同して地盤調査を実施してきました。2011年から千葉県浦安市で、2015年からは長野県諏訪市で毎年地盤調査を実施しており、今年度も両市での調査を予定しています。また、2016年9月には熊本地震の被害原因究明のために益城町で様々な地盤調査を行いました。これらの研究成果は毎年地盤工学会や土木学会などで多数発表しています。

年間3回程度の地盤調査は、学生たちにとって技術者やOBの方々と触れ合う良い機会になっており、日頃の研究室での研究活動に対する意欲の向上にも繋がっていると感じます。

【山田卓】

「水理学演習」、「水防災工学」を、大学院では「流体環境・水防災工学特論」などを提供し、流体力学とその応用、防災への社会実装における様々な課題について基礎から応用まで学べるように、日々工夫をしております。

昨今の研究テーマとしては、①構造物まわりの局所洗掘対策に関する研究、②栈橋構造物周りの飛沫発生メカニズムに関する研究、③平板群・円柱群周りの流体の運動計測、高精度数値計算法の開発と誘起流動に関する研究、④臨海都市部における津波伝播に関する研究、⑥大阪湾生態系シミュレーターの開発、⑥波力発電システムの構築に関する研究、⑦臨海都市部の閉鎖性水域における流動促進と水環境改善に関する研究、⑧社会構造の変化を考慮した内湾環境将来像に関する研究、⑨多孔質構造物による波浪減衰機構に関する研究、⑩極端気象災害の再現年数推定に関する研究、⑪気候変動が台風災害に及ぼす影響に関する研究、⑫災害予測の不確実性とそれに適応する社会システムに関する研究、⑬微小気象攪乱がもたらす異常潮位予測に関する研究、⑭将来の海岸地形変化に関する研究など多岐に富んでいます。全国的に数値計算法を用いた研究が多くなる傾向にありますが、大阪市立大学の貴重で伝統ある水理実験場を活用した研究も継続的に取り組んでいます。何か共同で研究で

きるような案件がありましたら、ご遠慮なくご相談ください。

平成28年度の研究室の主な活動について報告します。5月には4月に発生した熊本地震の現地視察に行っていました。学会関係では、土木学会関西支部年次学術講演会（立命館大学）、海洋開発シンポジウム（アクトシティ浜松）、土木学会全国大会（東北大学）、土木学会海岸工学講演会（大阪大学中ノ島キャンパス）、海洋工学シンポジウム（日本大学）にて発表を行いました。また、その他の研究活動として九州海岸工学者の集い（熊本）や都市防災研究シンポジウム（学情センター）においても研究成果を発表しています。また、過去の巨大災害の推定に関係して研究室OBの二宮助教（金沢大学）と連携してトンガ王国にて巨石の分布調査を行いました。

研究室の行事としては、たくさんのイベントを環境水域工学研究室と合同で開催しておりますので、そちらの記事を写真と合わせてご参照ください。研究室学生の追いコンについて、別途に難波にて行った時の写真を掲載しておきます。これからも元気で将来有望な卒業生をたくさん輩出していきますので、OBの皆様にはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

河海工学分野

河海工学分野は、河海工学が専門の重松孝昌教授と水理学が専門の中條壯大講師の2名の教員に加え、研究支援課の小池敏也技術職員のご協力もいただきながら、臨海都市の安全性・快適性向上のための研究・教育を行っております。2016年度は、10名（+1名の仮配属）の学生が所属しておりましたが、後期博士課程：1名、前期博士課程：3名、学部4回生：1名が社会へ旅立ち、社会人ドクター1名が学位を取得され、計6名が新生活を開始されました。2017年度は、前期博士課程：5名（大阪産業大学より1名）、研究生：1名（近畿大学より1名）、学部4回生：6名の計12名という体制です。

教育活動としては、学部では専門科目として「基礎流体力学」、「水理学」、



追いコン2次会の様子（難波 法善寺 力丸茶屋にて）

環境創生領域

地域環境計画分野

地域環境計画分野は、都市学科の中で、熱とエネルギー利用に関わる研究・教育を担っており、都市居住における熱的快適環境の創出と低炭素化社会実現のための効率的なエネルギー利用技術の確率を目指しています。分野を構成している教員は西岡真稔教授と、鍋島美奈子准教授の2名であり、西岡教授は都市の熱環境に関わる伝熱理論と対策技術を専門とし、また鍋島准教授は都市の微気象と空間解析および熱回収利用技術を専門としています。都市の熱有効利用が専門である中尾正喜特命教授（2012年度まで本研究室に在籍、現在は複合先端研究機構に所属）と連携して研究を進めています。



阪堺電車綾ノ町駅待合ベンチでの熱環境測定

す。2017年度は、前期博士課程10名、学部4回生6名の学生が研究室に所属して、①都市気候の観測、都市ヒートアイランドおよび都市内熱環境の改善対策や、②都市域における熱エネルギーの有効利用に関する研究をおこなっています。

前述の研究テーマ①の中から、2016年夏季に実施したクールスポット効果検証実験をご紹介します。写真1は阪堺電車綾ノ町駅の待合ベンチの周辺に、暑熱対策としてフラクタル日除け、冷却ルーバー、ミストノズル付きファンを設置し、物理環境の測定をおこなっている状況です。この場所では学生の協力を得て被験者実験も行いました。ベンチに座った人（5分程度歩いて自宅から駅に来た人を想定）の首筋から上腕部をめがけて、ミストを噴霧すると、蒸発冷却で1℃程度冷えた空気と未蒸発ミストが首筋から上腕に当たり、皮膚温度が低下し全身冷感も涼しい側に移行することが確認できました。ファンと一体になったミスト噴霧装置は、ファンがない通常のノズルで噴霧する場合と比べて、風のある屋外でも狙いを定めやすいため、より効果的に人体を冷やすことができます。2020東京オリンピック・パラリンピックを控えて、冷房ができない屋外空間での熱中症対策として、このような積極的な対策技術の普及が進むと考えられます。

写真2は2016年度メンバーの追い出しコンパ終了時の集合写真です。毎年、卒

業式の日には追い出しコンパを行っていますが、卒業するM2の学生に研究室で過ごした3年間の思いを熱く語ってもらうのが恒例となっています。今年も涙あり笑いありの楽しい演説を聞くことができました。教員にとっては嬉しくもあり少し寂しい3月でしたが、卒業生が社会に出て活躍してくれることを楽しみにしながら、また新たな気持ちで新年度を迎えています。

都市リサイクル工学分野

当分野は、貫上佳則教授、水谷聡准教授、および年見寛和技術職員に加え、遠藤智司テニユアトラック特任准教授とも連携を図りながら4名で運営しています。また大学の連携大学院制度を活用し、大阪市立環境科学研究センター（本年4月より、大阪市立環境科学研究所から名称変更）の増田淳二課長に客員教授として後期博士課程の研究教育活動を支援頂いています。

今年の学生は、後期博士課程2名（いずれも社会人）、修士2回生7人、修士1回生4人、4回生5人、研究生1人で合計19名を数え、賑やかです。研究室では、例年ゴールデンウィーク中に4回生の歓迎会を兼ねたOBOG会を開催しています。配属された4回生の顔見せだけでなく、学生にとってはOBOGを通じて環境関連業界の生の情報に触れる機会でもあり、OBOGにとってはリクルートの1つの機会としてとらえていただき、参加者には大変好評です。また大学院入試が終わった頃には1泊ないし2泊で、研究に関係のある施設の見学を含めたゼミ旅行に行っています。これまで、メタン発酵と焼却施設を有する南但クリーンセンター（兵庫県朝来市）、足尾銅山跡地、家電リサイクル工場、ビール工場、PCB処理施設（JESCO、豊田市）、豊島・直島対策工事現場などを見学させていただき、昨年はユニークな炉形式の静岡県伊東市環境美化センター（写真1参照）の施設を見学させていただきました。このように、公害問題発祥の地や環境関連施設として知られるこれらの施設



卒業式後の追い出しコンパ（2017年3月21日）



写真1：ゼミ旅行で訪問した静岡県伊東市環境美化センターにて

を訪問し、実際の施設や展示資料に触れ、関連説明をお聞きすることで、座学では得られないより詳細な知識や関係者の思いの一端にも触れることができ、学生だけでなく教職員にとっても非常に有意義な行事であると認識しています。

研究では、“都市の循環を考える”をコンセプトに、都市における物質循環と上下水などの水循環、さらには微量有害物質による汚染実態を調べるなど、都市の循環システムを軸とした幅広い研究を行っています。具体的には、①廃棄物・廃水からの資源エネルギー回収、②リサイクル時の環境安全性評価、③水環境の評価・水質制御技術、④上下水道・廃棄物処理システムの減炭化、⑤微量有害物質の環境動態把握と新たな測定手法の開発、に関する研究を進めています。現場調査や試料のサンプリングの際には、写真2に示すように安全にも十分に配慮しており、学生にとっても貴重な体験になっていると考えています。

これらの活動で得られた研究成果については、廃棄物資源循環学会や土木学会、環境化学会、環境技術学会などの研

究発表会で学生自身に発表させており、昨年度には廃棄物資源循環学会の「春の研究発表会」にて、林健太君が「射撃場より発生した汚染土壤中の鉛の粒度別濃度」と題した発表で最優秀ポスター賞を、若山聖君が「リン組成分布からみた下水消化汚泥からのリン回収法の検討」と題した発表で優秀ポスター賞をそれぞれ受賞しています（写真3、4参照）。

今後も、フィールドに根ざした研究を学生たちと進めていきたいと考えておりますので、皆様の関係先での課題解決に当方の研究がお役に立てそうでしたら、是非ご連絡いただければ幸いです。



写真2：都市ごみ焼却飛灰サンプリング時の安全保護具着用姿



写真3：林健太君、最優秀ポスター賞受賞（平成28年5月）



写真4：若山聖君、優秀ポスター賞受賞（平成28年5月）

環境水域工学分野

環境水域工学分野は、水圏生態工学が専門の相馬明郎教授と水圏環境工学が専門の遠藤 徹講師、研究支援課の小池敏也技術職員の3名で、都市圏水圏生態系の保全と活用に資する研究・教育を行っています。2016年度は、客員研究員を含め11名の学生が所属しておりましたが、前期博士課程：4名、学部4回生：3名が社会へ旅立ち、2017年度は、客員研究員：1名、前期博士課程：3名、学部4回生：6名の合計10名という体制です。



ゼミ旅行の様子（兵庫県姫路市家島の家島港にて）

教育活動としては、学部では専門科目として「環境生態学」、「水圏生態工学」を、大学院では「水圏生態系工学特論」、「沿岸環境工学特論」などを提供し、都市学科（社会）における生態系の重要性、役割について教育するとともに、生態系機能を社会活動に活用するための学問（生態系工学）の教育を行っています。

研究テーマとしては、①都市圏干潟・浅海域における環境改善に関する研究、②都市沿岸生態系における貧酸素化の改善に関する研究、③都市沿岸生態系の気候変動緩和機能に関する研究、④生態系

回復と貧栄養化の関係性に関する研究、⑤全球の沿岸生態系保全による気候変動緩和策、⑥大阪湾生態系シミュレーターの開発、⑦湾央域あるいは干潟浅海域の堆積物表層における物質循環メカニズムの解明、⑧都市沿岸域の人工湿地における生態系機能に関する研究、⑨都市河川大和川のアユの生活史に関する研究、⑩大和川流域圏における物質循環機能に関する研究など、数値計算・フィールド調査・室内実験・統計解析など、あらゆる手法を駆使し、都市の沿岸域から全球スケールにおける水圏生態系に関わる研究を実施しています。また、学内のみならず他の研究機関（港湾空港研究所、兵庫県水産試験場）、大学（東京大学、神戸大学、大阪府大高専）、地方公共団体（大和川河川事務所、大阪市）などと連携しながら活動しています。

平成28年度の研究室の主な活動について報告します。学会関係では、土木学会関西支部年次学術講演会（立命館大学）、日本水環境学会シンポジウム（秋田県立大学）、アメリカ・アジア土木技術国際会議（ハワイ）、土木学会海岸工学講演会（大阪大学中ノ島キャンパス）、日本水環境学会関西支部研究発表会（大阪工業大学うめきたキャンパス）、日本水環境学会年会（熊本大学）にて発表を行いました。中でも、海岸工学講演会では、西尾君（H25年度前期博



海工学および環境水域工学研究室新年懇親会の集合写真（2016年1月7日ヴィアール大阪にて）

士課程修了)の論文「人工塩性湿地堆積物中における難分解性有機炭素の動態」が海岸工学論文奨励賞を受賞し、また、日本水環境学会関西支部研究発表会では、宮脇君(H26年度前期博士課程修了)が「大和川沿岸域における流下仔アユの分布エリアの推定と生息環境評価」で優秀発表賞を受賞しました。

研究室の行事としては、5月に恒例の新生歓迎BBQ、8月にはゼミ旅行、11月に海岸工学講演会市大の会、1月に河海工学・環境水域工学研究室卒業生新年会を開催しました。ゼミ旅行は兵庫県水産試験場を訪問し、播磨灘海域の環境や、今後様々な海域で予想される環境問

題について勉強しました。その後は、兵庫県姫路市の家島、相生市にて交流を深めました。海岸工学講演会市大の会は、大阪開催ということもあり多くの卒業生の方にも参加していただき梅田で盛大に開催しました。新年会は、ヴィアーレ大阪にて60名で開催しました。来年も開催いたしますので、奮ってご参加ください。

また、昨年度は卒業生の方にいろいろとお世話になりました。まず、都市学科1回生の「都市学入門」の一環で、池田氏(2000年学卒・2002年修卒)・大谷氏(2009年学卒・2011年修卒)・古城氏(2012年学卒・2014年修卒)にお世話に

なり、関空エアポート(株)の施設見学を行いました。まさに都市学科の縮図のような業務で、大変貴重な見学会でありました。また、山野氏(2004年修卒)、酒井氏(2012修卒)にお世話になり、東洋建設の一画で調査を実施させてもらい、国分氏(2008年博卒)の協力のもと三重県英虞湾での調査など、実施しました。大変お世話になりましたのでこの場をかりてお礼とさせていただきます。

近年は、卒業生の皆様からリクルートの問い合わせがたくさんあります。リクルートも含め、是非研究室へお越しください。

都市デザイン領域

都市デザイン領域には、(1)環境都市計画、(2)都市基盤計画、(3)環境図形科学の3分野が属しています。

教員構成においては、2016年度末に大きな変化がありました。日野泰雄教授が定年退職され(現在は名誉教授ならびに都市研究プラザ・特別研究員)、佐久間康富講師が和歌山大学システム工学部へ准教授として転出されました。

以下では、分野ごとに2016(H28)年度の研究活動成果などの近況を紹介します。

が奨励賞を受賞しました。

例年通りコンペ活動も活発でたくさんの賞をいただきました。全て紹介できませんが、いくつかご紹介します。日本建築学会近畿支部都市計画部会主催「第7回アーバン・デザイン甲子園」において、都市計画研究室(川江、金田、大村、芳永、向井、宮地、島田)の作品が最優秀賞(優勝)を受賞しました。土木学会景観・デザイン委員会、景観開花実行委員会、東北大学平野研究室主催「景観開花、2016」において、都市計画研究室(川江、金田、大村、芳永、向井、

宮地、島田)の作品が特別協賛企業賞(ドーコン賞)を受賞しました。

また、2017年1月には特別研究員の阿久井康平君が富山大学に助教として着任しました。また、3月末で佐久間康富講師が退職しました(4月より和歌山大学准教授)。今年度も密度の濃い一年でしたが、これまで長年一緒に活動してきたメンバーが新天地へと飛躍した節目の年となりました。今後の皆さんの活躍を大いに期待し、環境都市計画分野もさらなる挑戦を目指します。

環境都市計画分野

2016年度の環境都市計画分野は、嘉名光市准教授、佐久間康富講師で構成され、日本学術振興会特別研究員(PD)1名、博士後期課程2名、前期博士課程11名、学部4回生5名の体制で活動を行いました。

研究活動は、まちなか広場等の多様な都市空間を対象とした活用社会実験、回遊行動を通じた人々のアクティビティの研究や、まちなか防災空地整備事業に関する研究、漫画やコスプレイベント等における風景研究など多彩な活動を展開しました。

2016年5月には嘉名光市准教授が日本都市計画学会石川賞(水都大阪のまちづくり)を受賞(共同受賞)しました。また、日本都市計画学会第14回関西支部研究発表会において、向井雅人君(M1)



第7回アーバン・デザイン甲子園(日本建築学会近畿支部)の最優秀賞の受賞

都市基盤計画分野

1) 教員及び学生の近況紹介

- 内田敬／教授（H29年度2回生学年相談委員）

交通工学・国土計画：都市活性化のための来街者支援情報システム、交通需要予測のための回遊行動観測システムの開発、視覚障害者の街歩き支援ナビゲーションシステム

- 吉田長裕／准教授（H29年度3回生学年相談委員）

交通環境工学：都市交通のグリーン化に関する研究、自転車・パーソナルモビリティに関する国内外の交通施策動向とその安全・環境・健康性能の評価に関する研究

- 学生（H29年度）：後期博士課程2名（社会人）、外国人客員研究員1名（5～7月）、前期博士課程8名、学部8名、研究生1名、計20名

H28年度には学部生6名が卒業、大学院前期博士課程2名が修了しました。



以下に、現在取り組んでいる修士論文研究を示します。

<H29年度修論テーマ>

- 生活道路における自転車用路面表示の

設置効果

- 客観・主観的ヒヤリハットデータを用いた交通事故リスク分析
- 移動活性化を目的としたバスサービス導入による効果評価
- 継続的交通安全教育実現のための主要課題の検討
- カンボジア・プノンペンにおける高校及び大学生の二輪車運転挙動と態度
- 外出困難者を対象とした2人乗り可能な自転車の潜在的利用機会と課題
- こどもの自転車交通安全教育の実態とその課題
- 地区特性別の自転車利用からみた協働まちづくり



ゼミ旅行は金沢方面へ



謝恩会にて



毎年恒例の年末ゼミの様子



H28年交通工学研究会（東京）での研究室懇親会

2) 研究室の近況

研究成果は、土木学会（全国大会、関西支部、土木計画学研究発表会）や交通工学研究発表会等で発表し、H28年度は2件が受賞しました。

- 佐美三幸典君が平成28年度土木学会関西支部年次学術講演会（2016/6/11@立命館大学）において、優秀発表賞を受賞しました。題目：自律白杖と言葉の地図を用いた視覚障害者ナビの地物記述ガイドライン
- 沢田有美恵さんが第36回交通工学研究発表会（2016/8/8～8/9@日本大学）において研究奨励賞を受賞しました。題目：自律白杖とことばの地図を用いた視覚障害者ナビ



カンボジア・プノンペンにおける交通状況

環境図形科学分野

環境図形科学研究室は、2013年4月に瀧澤重志が准教授として着任して以来4年が経過しました。瀧澤は学部教育では、主に全学基礎教育課目の図形科学I・IIを、大学院では、特別演習と環境情報処理特論を担当しており、図学、CG、コンピューショナルデザイン、データ解析などを教えています。

研究室の現在の主な研究テーマを以下に示します。

1) 狭域空間の分析手法の開発：

2015年度までは、空間イベント発生場所の分類精度を最大化する凸領域の推定手法に関する研究を行ってきました。2016年度からはこの研究成果を受けて、高速列挙アルゴリズムとHypergraphによるSpace Syntaxの拡張という新しいテーマについて、科研費基盤Cの補助を受けて研究を開始しました。この研究では、Space Syntaxと呼ばれる、建築計画や都市計画で日本でも近年使われることが増えている空間分析手法について、それが有する数理的な問題点を解消するために、高速な列挙アルゴリズムを使った新たな導出方法や、Hypergraphによって新たな空間特徴量を提案することを目

標としています。現在のところ順調に研究が進んでおり、成果を今年リスボンで開催されるSpace Syntax Symposiumで発表する予定です。さらに2016年度から、ゲームエンジンと深層学習を基盤とする一人称視点型3次元空間分析手法という、空間分析における人工知能の活用に関する研究も始め、基本的な成果が出てきたところです。

2) 大阪市を対象とした避難計画：

以前から行っている梅田地下街の垂直避難場所の割り当て問題について、数理計画の問題として定式化を行い、汎用ソルバーを使って解く方法に改良し、求解速度や解の精度を向上させました。さらに2016年度から大阪市全域を対象として、地震時の徒歩帰宅者の大規模な徒歩帰宅行動のシミュレーションモデルを開発し、想定される津波襲来時点でも、淀川の橋梁上で歩行者が滞留する可能性が高いことなどを示しました。なお、2016年度も梅田地下街の垂直シミュレーションについて、いくつかのメディアの取材を受けました。図1右はABCの「おはよう朝日です」の取材のために来訪した岩本アナウンサーです。

2016年度の研究室構成は、M1が1名、4年生が3名（うち都市学科1名、

建築学科2名）です。さらに2016年度に始まった卒業研究早期準備制度により、3年生1名が研究室にきました。なお2016年度は、M1の山本遼君が、制約考慮型ネットワークボロノイ図を用いた梅田地下街における避難計画モデルの研究で、日本建築学会大会学術講演会の若手優秀発表者賞を受賞しました。メンバーは全員無事就職・進学が決まりました（図2）。大学院進学者も徐々に増え、研究室の体制が固まってきました。この調子を今後も維持したいと思っています。



(図1)



(図2)

日野泰雄 教授 最終講義のご報告

都市基盤計画研究室で長らく教授を務めてこられました日野泰雄先生が、2017年度末をもって定年退職されました。教育・研究活動および大学運営など市大一筋に40年間勤められ、本当に長い間お疲れ様でした。なお、3月31日には、教育上又は学術上の特に顕著な功績が認められ、名誉教授の称号を授与されました。これに先立ち、2017年3月9日（木）に大阪市立大学学術情報総合センター10F会議室にて、工学研究科都市系専攻の主催により、最終講義が開催されましたので、その報告をさせていただきます。

当日は、卒業生を中心に、学内外から総勢176名の方が出席されました。『市大で都市と交通に取り組んで40年 理論から現場へ、そして道理へ』という題目で、①生い立ちを語る！②研究の成果は結実したか？③海外での

人との交流！④人を育てられたか？⑤贈る言葉！？、という構成で、スライド99枚を使って講義をされました。自己紹介の約20ページのスライドで半分の時間を使われ周りがヒヤヒヤしましたが、当初予定した90分間は、楽しい思い出やご苦労された話などとともにあっという間に過ぎてしまいました。その後、専攻長からのご挨拶、研究室および小学校同級生からの花束贈呈ののち、記念撮影を行いました。

最終講義の後は、同じフロアにある研究者交流室で、研究室主催の茶話会を開催しました。先生に直接一言お礼を言わせて頂きたいと駆けつけた卒業生達（なかには遠く北海道からも）に加え、構造研の園田名誉教授（乾杯のご発声を頂きました！）をはじめとする学科の諸先輩方、仕事関係の関係者を含め、総勢124名のにぎやかな会と

なりました。久しぶりの再会で近況報告などに会話が弾み、用意された3時間もあっという間に過ぎ去り、散会となりました。

さて、気になる日野先生の定年退職後ですが、しばらくはゆっくりとお休み頂き疲れを癒やして頂きたいところですが、早速4月より、都市学科非常勤講師（前期・後期1科目ずつ）をお願いしており、これまでと変わらず杉本町に通って頂いております。追伸：最終講義および茶話会での記念写真については、以下のリンクまたはQRコードからご覧下さい。



(吉田長裕)



最終講義の様子



最終講義後の記念撮影



茶話会での卒業生との記念撮影①



茶話会での卒業生との記念撮影②

イベント開催報告

平成28年度 都市会総会報告

平成28年度都市会評議員会、総会、懇親会を平成26年6月24日（金）午後6時から大阪市中央区本町のヴィアール大阪において開催致しました。出席者は56名でした。

評議員会・総会では、平成27年度の事業報告、会計報告及び会計監査報告がされ、また平成28年度の事業計画及び予算案、役員選出を提案し、それぞれ承認・可決いたしました。

平成28年度議案の主な内容は、

- ①学生支援活動：新入生歓迎会、学外実習報告会、就職ガイダンスなど
- ②会員交流活動：東京支部総会、ゴルフコンペなど。またその他会員から多彩な活動提案を募集する。
- ③広報活動：都市会会報第3号発行、ホームページの充実・更新。
- ④予算として、年間4,700,000円を計上しました。

役員改選は、会長が山田優氏（S40年卒）から川本清氏（S47年卒）に、副会長には川本清氏の後任として八尾博彦氏（S52年卒）にまた幹事では東崎喬氏（S22年卒）から井上保氏（S26年卒）、廣海泰次郎氏（S38年卒）から岸本好弘氏（S40年卒）が新たに選任されました。

また、評議員についても、S22年卒が東崎喬氏、S40年卒が文野結記氏、S45年卒が吉田邦晃氏、S52年卒が久保元生氏に代わりました。H28年卒では新たに木村駿介氏が選任されました。

懇親会は川本清新会長の挨拶と日野教授（大学特任副学長）から大学の状況などのお話が有り、元土木会会長の玉井義弘氏（S32卒）の乾杯の発声で宴に入りました。大学から多くの先生方のご出席をいただき、先生方や先輩・後輩など会員相互の交流やクジ引きによる景品抽選会など、廣瀬彰則氏の名司会で大いに盛り上がりました。

今回はさらに多くの皆様のご参加をお願いします。

第3回 大阪市立大学都市会 東京支部総会 報告

平成28年11月18日（金に、第3回大阪市立大学都市会東京支部総会が東京品川の“アリス・アクアガーデン”で開催されました。東京支部は、土木会の東京支部として、昭和60年に発足し、以来、毎年支部総会を開催し、会員の親睦、情報交換等を行っています。今年は、都市会として3回目の開催となりました。東京支部総会は、平成3年以来、毎年、原則として、土木の日に開催しており、今年も11月18日に開催しました。

当日は、大学から工学部都市学科地域環境計画研究科の西岡教授に来ていただくとともに、八尾都市会副会長に大阪から来ていただき、昭和43年卒業生から平成27年卒業生まで総勢25名の出席がありました。川崎支部長の挨拶、西岡教授から大学の近況等を紹介していただき、村上様（S43卒）の乾杯で懇親を深めました。

宮崎様（S43卒）が大動脈瘤から生還されたことや還暦になって初めての東京生活をされている古川様（S54卒）などに話題提供をしていただきました。また、欠席者からのコメントとして、福島第一原発の現場で同窓生が出会ったことなどが紹介されました（福島第一原発関

連（中間貯蔵施設含む）で少なくとも4名の方が福島で活躍されています。その他、会員相互の情報交換等を行った後、西口様（S54卒）のご挨拶で中締めとなりました。

平成29年度も、11月17日（金）（土木の日が土曜日のため繰り上げ）に、アリス・アクアガーデン品川で開催します。品川駅まで徒歩3分で新幹線への便もよいので、出張等で上京の方もぜひご参加ください。

なお、参加費は新卒の方は無料、卒業5年未満の方および65歳以上の方は3,000円としておりますので、奮ってご参加ください。また、転勤等で関東地区に異動になられた方は、東京支部幹事までご連絡ください。

大阪市立大学土木会東京支部

幹事 中村龍由（S60卒）

E-mail : nakamura-tatsuyoshi@toyo-const.co.jp

市土会ゴルフコンペ 報告

恒例の第25回市土会ゴルフコンペが、前回から1年半ぶりに平成28年5月27日（金）に富田林市の聖丘カントリー倶楽部で開催されました。

当日の天候は五月のゴルフ日和に恵まれ、15名の参加者が徳本会長（S46卒）の開会挨拶のあとスタートしました。

ゴルフの腕前を競いつつも、プライベートの話などで盛り上がりながら楽



東京支部総会



懇親会写真

しくラウンドされました。プレー終了後には、懇親会と表彰式が行われ、優勝：住吉正信氏（S46卒）、準優勝：寺田邦男氏（S49卒）、3位&スグロ：古谷利男氏（S49卒）、その他順位賞・ニアピン賞・ドラコン賞に授与が行われました。

今回は、平成29年の秋に予定しています。詳細が決まりましたら土木会HP等でご案内いたします。

皆様のご参加大歓迎です。お問い合わせは幹事または都市会事務局へお願いします。
幹事：徳本（S46卒）、岡田（S60卒）、吉田（S62卒）

※ 前会長の芦田淳氏（S39卒）が昨年10月に逝去されました。ご生前のご功績をしのび、心からご冥福をお祈り申し上げます。

就職ガイダンス

学生支援活動の一環として、大学が行う1～3年生、M1を対象とした「進路指導・キャリア教育イベント」と合同で都市学科 業界説明会を3回に渉って開催いたしました。第1・2回目は業界説明会として、各業界から学生に対しての説明会としましたが、第3回目は前年度と同様に、会社別OB相談会として31社の企業にお越し頂き、各社の相談ブースを設けて就職相談会を開きました。当日は学生が関心のある企業や業界のブース

を順番に回り、熱心に説明を聞き、いろいろな相談をしており、非常に盛況な就職ガイダンスとなりました。

開催日時および説明頂いた企業等は次の通りです。なお説明頂いた方々のほとんどが、都市会の先輩諸氏でした。

説明会・相談会終了後、リクルーターの皆様と学生、教員とで懇親会を持ち、就職について熱のこもった話で盛り上がりました。

また、今回は都市会の財政難からリクルーターの皆さんから懇親会の費用としてご寄付を頂きました。この場をお借り致しまして篤く御礼申し上げます。

第1回目

平成28年12月22日(木)15:00～18:00

工学部G棟、中講義室

公務員

(国家) 国土交通省近畿地方整備局
大和川河川事務所

(都道府県) 奈良県

(政令市) 大阪市

鉄鋼 川田工業

ゼネコン 大成建設(株)

コンサルタント (株)エイト日本技術コンサルタント

環境分野 (株)タクマ

第2回目

平成29年1月13日(金)15:00～18:15

工学部G棟、中講義室

鉄道事業者(総合職) 西日本旅客鉄道(株)

鉄道事業者

(技術系専門職) 東日本旅客鉄道(株)

鉄道事業者

(都市内地域交通) 大阪市交通局

道路管理者

(高速道路) 阪神高速道路(株)

ゼネコン(準大手) (株)銭高組

ゼネコン(マリコン) 五洋建設(株)

ゼネコン(環境) (株)鴻池組

コンサルタント(電力) (株)ニュージェック

道路・舗装 ニチレキ(株)

下水道 クリアウオーター-OSAKA

環境プラント (株)プランテック

エネルギー・機械 JFEエンジニアリング(株)

エネルギー関連

(鉄塔) (株)デンロコーポレーション

第3回目 会社別OB相談会

平成28年2月17日(木)15:00～18:00

G201,G202,G301,G302

業界	企業名	説明会場
公務員	近畿地方整備局 大和川河川事務所	G201
	香川県	
	大阪府	
	奈良県	
	大阪市 神戸市	
インフラ系	首都高速道路(株)	G201
	JR 西日本コンサルタンツ(株)	
コンサルタンツ	(株)阪神高速技研	G201
	(株)建設技術研究所	
	いであ(株)	
	キタイ設計(株)	
	(株)ニュージェック	
	(株)CORE 技術研究所	
	NEXCO 西日本コンサルタンツ(株)	
大日本コンサルタント(株) 中央開発(株)		
エネルギー	(株)関電エネルギーソリューション	G201
ゼネコン	西松建設(株)	G202
	(株)銭高組	
	鉄建建設(株)	
	鴻池組(株)	
	奥村組(株)	
	東洋建設(株)	
メーカー	日本国土開発(株)	G302
	東亜建設工業(株)	
	エム・エム ブリッジ(株)	
	アズビル(株)	
	(株)プランテック	
	ダイキン工業(株)	
	(株)栗本鐵工所	
	計 31 社	

平成29年都市学科 新入生歓迎会

平成29年4月13日(木)午後5時から、田中記念館のレストラン「めたせこいあ」で平成29年度都市学科の新入生歓迎会を開催しました。今年の新入生は都市学科9期生、53名でその内女性は12名です。

今年の歓迎会も前年度と同様、教員1名と新入生3～5名の小グループに分かれ、そこに上級生も加わって先生方に対してグループインタビューを行い、その後、各グループの新入生から各先生方の特徴や話題になったことなどを発表するなどして、大いに盛り上がりました。



平成29年都市学科新入生歓迎会 全体集合写真

特 別 企 画

ベトナム新幹線FS調査

(フィジビリティ・スタディ:採算可能性調査)

プロジェクトに参加して

宮 本 潔 (1962年土木科卒)



(はじめに)

私は1962年の3月に本学の土木科を卒業して、当時の国鉄に入社し、1987年の国鉄分割民営化によってJR西日本に採用となり、JR西日本の子会社の社長を経て、2005年にJR関係を完全にリタイアしました。そして現在、海外の鉄道関係のプロジェクト案件のお手伝いをさせていただいている者です。

(ベトナムの概要)

国 家	社会主義共和制国家	
首 都	ハノイ	人口 759 万人
公 用 語	ベトナム語	
人 口	92.7 百万人	
通 貨	(ベトナム) ドン	
面 積	34.6 万㎡	日本の 90% の広さ
一人当たりの GDP	4,012US\$	日本は 32,500US\$



ベトナムとベトナムの国旗

(最近の海外の鉄道事情)

- ① 最近になって、海外の大都市（主として東南アジア）、例えば、ベトナムのハノイやホーチミン、タイのバンコック、インドネシアのジャカルタ、フィリピンのマニラ、バングラディッシュのダッカ、エジプトのカイロ、などの各都市では経済活動の旺盛な発展により人口が都市へ集中し、モータリゼーションの発達も伴って、ラッシュ時の道路交通は麻痺状態の状況にいたっている。ダッカなどでは、たった10km程度の道路を自動車で移動するのに2時間～3時間もかかるような状態となっている。
- ② この対応策として、各国では道路を新しく建設しているにもかかわらず、直ぐに交通麻痺状態になり、一向にこれらの問題は解決しないし、さらに道路を建設するのは不可能と言う壁にぶち当たっている。そのため、大量交通機関としての特色を持つ地下鉄や高架鉄道などの都市鉄道（地下鉄や高架鉄

道のほかにライトレールやモノレールなどの建設要請が高まり、日本政府に対してこれらの鉄道に関する技術援助と共に資金援助を併せて強く要望してきている。そして前述した大都市では特色のある都市鉄道新設工事や増強工事が実際に進められている。

- ③ 一方、インド、インドネシア、タイ、マレーシアなどの国では旺盛な国内輸送需要の増加にともない、都市間高速鉄道の建設要請も近年特に多くなりつつある。特にインドネシアでは日本と中国が新幹線の受注をめぐる激しく競争をし、日本が負けると言う事態まで生じている。

(ベトナム新幹線計画)

- ① 一方、ベトナムでも国内の旺盛な将来の輸送需要に対応するため、ベトナム政府は在来鉄道に平行して新設する高速鉄道の調査をベトナム国鉄の子会社である鉄道コンサルタント会社 (TRICC) に委託し、このTRICCの要請を受けて日本のコンサルタント会



ハノイ～ビン間の北側新幹線計画



ホーチミン～ニャチャン間の南側新幹線計画

社（日本交通技術株）（後に株長大と合併）、社団法人海外鉄道技術協力協会（略称JARTS、後に日本コンサルタント株）、日本工営株の3社がこの調査に共同し、ハノイ～ホーチミン市間約1700kmの新幹線システムをベースとした高速鉄道のプレ・フィジビリティ調査（Pre-F/Sと呼ばれるもので概略の採算可能性調査）をベトナム政府の自己資金で実施した。その結果に基づいて高速鉄道の建設の是非を2010年6月の国会に諮られたが、主に事業費の大きさの問題で承認が得られず（新幹線の建設費が約5兆円でベトナム政府の年間国家予算に匹敵し、新幹線以外に緊急にやらなければならないプロジェクトが多く存在するため）継続審議となり、再度、国会で諮られることになった。

- ② しかしながら、世界の新興国がこぞって高速鉄道を計画する中で、ベトナムにおいても長期的には高速鉄道の必要性が変わることはなく、日本の民主党の元前外務大臣のベトナム訪問をきっかけに新幹線建設の実現要望が

再度高まった。Pre-F/Sでは新幹線をハノイからホーチミンまでの1700kmの全線を建設するための調査であったが、今度は優先度の高い北側のハノイからビンまでの320kmと南側のニャチャンからホーチミンまでの410kmの新幹線規格でのフィージビリティ調査を実施してほしいと言う強い要望がベトナム政府から要請され、国際協力機構（略称JICA）はベトナム政府からの要請に基づき、北側を(株)オリエンタルコンサルタント・グローバルが、南側を日本工営(株)が中心となって技術的な調査をし、車両・輸送・規格などの両区間にかかわる共通の事項はJARTS、日本コンサルタンツ(株)が担当し、需要予測などのソフト関係は(株)アルメックVPIが担当して、「南北高速鉄道建設設計画策定プロジェクト」調査を2011年～2014年に実施した。

③ 私は(株)オリエンタルコンサルタントグローバルの一員として北側のハノイ・ビン間のルート選定関係と軌道関係の担当として参加させていただくことになり、ベトナムに合計4回渡航し、ベトナムに延べ滞在日数を4ヶ月過ごすこととなった。この調査団のメンバーの一人として、徳島大学の教授をしておいでになった本学の大学院を昭和44年にご卒業になった望月先生も地質調査担当で参加していただいた。

④ しかし、この調査の結果、高速鉄道の建設は2030年以降のベトナム経済が今よりかなり発展を遂げた時点で建設されるべきであり（日本の東海道新幹線が建設されたときは、車両費を含めた総建設費は日本のGDP（国民総生産）の約3%に相当した。このような経済状況になれば新幹線の建設は国家財政的に可能であると言える）、それまでの間は、在来鉄道である南北統一鉄道を十分に活用することが望ましいと言う提言にまとめ、新幹線の建設は延期されることとなった。

(ベトナムでの料理)

① ベトナムのハノイでは日本料理店が相当の数が存在する。われわれ調査団メンバーが宿泊していたホテルの直ぐ隣でも日本料理店が開店した。早速そのお店で日本料理を食べたが、その料理の値段は日本の大阪で食事する値段



ベトナム料理、フォー

よりも安い。そのようなわけで、夕食などは調査団メンバーの方々と日本料理店を食べ歩いていた。中には値段が比較的高いと思われる日本料理店もあったが、極力そのような日本料理店は敬遠してリーズナブルな値段の日本料理店を選んで毎夜通ったこともあった。

② ベトナム料理でなんと言っても安くおいしいのがフォー（日本の春雨のような麺に野菜に牛肉または鶏肉を煮込んで味付けした汁物をかけそれに香

草をちりばめたもの）で、ほとんど毎朝、鶏肉入りのフォーか牛肉入りのフォーを食べていた。大きな丼鉢で確か100円ぐらいだったと記憶している。

(ベトナムの観光地)

ベトナムの観光地では首都ハノイから東に100kmぐらい進んだところにハロン湾観光地があり、私も日曜日にそこを訪れたが、もっと多くの観光客がひきつけられるような施策をこれからどんどん取り入れてお客様をさらに満足させることが出来るようにした方が良いと思った。



ベトナムの観光地ハロン湾

世界地図に残した仕事

道下 勲 五洋建設(株)



1. はじめに

1981年に土木工学科河海工学研究室を卒業し五洋建設に入社した。本稿では1990年から2011年までの21年間にわたる海外での経験を紹介する。

2. 米国での生活

入社後9年間、技術研究所で研究開発に携わっていたが10年目の1990年6月に会社の留学制度に機会を得て、カリフォルニア大学バークレー校でMSを取得すべく渡米した。ニューヨークのコロンビア大学で4週間の英語クラスを受講後、サンフランシスコ対岸のバークレーには8月上旬に辿り着いた。11月には家内とまだ幼い3人の子供が合流して刺激いっぱい海外生活が始まった。

当時、ガソリンや肉、野菜などの食物は日本の1/3～1/4位の値段で、確かにアメリカの豊かさとグレートさを実感した。2年目の夏休みには45日間家族と

ともに車で全米を巡ったが、河海研の小田先生、重松先生が国際学会で米国に来られたのも、ちょうどこの時期であった。1991年12月にめでたく卒業して帰国したが、その直後から本格的な海外での活動が始まることになる。

3. 東南アジア、ミクロネシアでの工事

1992年2月の旧正月明けにシンガポール赴任の辞令を受け、海外での生活が再び始まった。その後、2011年6月末に帰国するまで19年間海外で建設工事に携わった。以下、その間のトピックをいくつか紹介する。

(1) シンガポールの国策プロジェクト

シンガポールでは国策プロジェクトである埋立とコンテナターミナル工事に携わった。

まず赴任直後の1993年からシンガポール中心街に位置するマリーナベイとその東側のタンジョンルー地区の埋立工事に

従事した。

護岸線部に分厚く堆積する超軟弱マリンクレイ層をシンガポールで初めてSCPにより改良した。現在、屋根にプールのあるホテル、マリーナバイサンズが立っている場所はこの時に埋立てた場所である。



次に1996年には南西部のパシルパンジャン地区に新たな16m岸壁を建設するべく、当時のシンガポール港湾局（PSA）発注のコンテナターミナル第1期工事に途中から加わった。5千トンのケーソンをロシアのウラジオストックから回航した3万トンのフローティングドックで5両同時製作し、約35日サイクルで引き出すなど、常識では考えられない超弩級急速施工をやり遂げた。この工事は工事所長として工事全体を見ることになった最初の工事であった。現在は4期工事まで終わり、世界のコンテナ輸送を支える一大ターミナルとなっている。

シンガポールは1965年にマレーシア連邦から独立後、急速に発展を遂げたが、その背景には、元の国土の約23%に相当する埋立地に欧米の石油メジャーの石油化学プラントを誘致し、また世界に先立って大水深コンテナターミナルを整備するなど、国策の超大型プロジェクトを精力的に推し進めてきた経緯があり、その一部に貢献できたことは大きな誇りである。



(2) マレーシア、ケルテでの防波堤、栈橋工事

南シナ海の海底にオイル・天然ガス田があり、マレーシアの国営石油会社であ

るペトロナスは、沖合の掘削リグから約250km離れたマレーシア東海岸のトレンガヌ州ケルテという町まで8本の海底パイプラインを敷設してオイル・天然ガスを輸送している。ケルテの町には、エチレン、ポリエチレンなどの石油化学プラントが林立する一大コンビナートが形成されており、石化製品の原料の輸入や製品の輸出のために栈橋と沖合約1.2km、水深15mほどの地点に総延長1.5kmの消波ブロック被覆捨石傾斜堤が計画された。



栈橋は鋼管杭式で1993年からの1期、1997年からの2期工事で6バースが整備された。この工事は海外工事としては初めてのフルターンキーの設計施工工事（EPC）であったため、単に施工だけではなく、設計、調達など多くを学ぶことができた。

(3) フィリピン、スービックでのコンテナターミナル工事

2004年3月に日本の特別円借款工事としてコンテナターミナル建設のためフィリピン、スービックに異動した。1992年のピナツボ火山噴火を契機として米国スービック海軍基地がフィリピンに返還された。再開発のため設立されたスービック湾再開発庁（SBMA）は、コンテナターミナルの新規整備を計画した。

この工事では、当時中東ドバイが活況で多くのフィリピン人が出稼ぎに出て現地通貨を家族に仕送りしたため、急激なペソ高が進行し、毎月数千万円の為替差



損を出しながら工事を進めざるを得なかった。為替の変動に一喜一憂しながら、胃が痛む毎日であった。海外建設においては、支払う工事費の割合に合わせて受取り通貨割合を決めることが最大の為替リスクヘッジであることを学んだ。



(4) ミクロネシア、ポンペイでの空港拡張工事

フィリピンに東に位置する島国パラオ共和国とヤップ、チューク、ポンペイ、コスラエの4島が構成するミクロネシア連邦は、かつてはドイツ領であったが、第一次大戦後の1920年に日本が国際連盟から委任され、委任統治領南洋諸島として、1945年の太平洋戦争終戦まで25年間統治した。そのミクロネシア連邦のポンペイ島で2009年から日本の無償援助工事として空港の拡張工事に2年間従事した。

既設の約9m正方形平屋建てのVIP待合室を傾けてしまい、1つ数千円の10~30トンの小型油圧ジャッキを数個日本から輸入して建物全体をジャッキアップして復旧したことは、誠に奇抜なアイデアでの成功経験であった。

また、2011年3月11日の東日本大震災時は、ポンペイにいてNHKの衛星放送の津波の映像に釘付けになった。

4. おわりに

2011年6月末に長期に亘る海外生活を終えて家内と2人で帰国して、早6年が経過した。今年11月には60歳となり、波乱に富んだ海外土木屋として1つの区切りを迎える。3人の子供たちは、シンガポールで日本人小学校を卒業後、中学からはインタースクールに進学したが、現在シンガポール、オーストラリア、アメリカで自活している。家族共々稀有な経験をさせてもらった会社に感謝するばかりである。

(掲載した写真はすべてグーグルアースからコピーした。)

連載企画 『10年ひと昔で強める同期の絆』

10年ひと昔 長いようで過ぎてみると短い
 外面の変化は隠しようがないけど、心根は卒業の時のまま
 その積み重ねで気がつけば〇年
 そんな区切りの年を迎えられた学年の同窓会の様子を語っていただきます
 毎年区切りの年があります 次はあなたの学年ですよ

想い残る理工学部 扇町時代

嶋 経 夫
 (昭和31年卒)



私達昭和31年に卒業した土木の仲間は10人、それぞれ各分野で活躍していましたが、現在は4人になってしまいました。私達が入学したのは昭和27年、理工学部の定員は200名でした。おおざっぱな内訳は、医学部・工学部・理学部への志望者達でしたから、合格して入ってきた連中は何か独特の雰囲気がありました。君はどのコース？、が会話の第一歩でした。教養学部2年修了の後専門学部に進むので、何故か自由な雰囲気があって、運動部に入って熱を上げる人、研究会や

趣味のクラブを楽しむ人、図書館通いの人、麻雀研究会？もあったかな～、で扇町学舎は若き熱気にあふれていました。その熱気を集中出来た一つが「大阪府大秋季ボートレース大会」でした。この大会は、市大最大のイベントであった！と思います。つまり大川の兩岸に市大の各学部の学生、はもとより父兄、市民、報道機関等が集まっていた。出場者は勿論、学生です。第1部は、各学部の各学年から複数のチーム（理工学部の場合は、化学、機械、電気、建築、土木等ですが勿論自由参加です）が参加して、約40チーム位だったと思います。第2部は、運動部、その他の各クラブ、その他（例えば、麻雀会とか）から約100チーム位の参加がありました。そうして各レースが始まります。場所は大川の桜ノ宮大橋付近から～川を下って大阪市長公館付近までの200～300m位だったと思います。市大のボート部員が、レースの審判や整理等を受け持って、第1部と第2部のトーナメント試合が始まります。私達土木進学予定のチームは、高校でも運動部所属の者が多かったことも幸いして、トントン拍子でまとなり、理工学部（土

木予定）2年生チームとして出場しました（扇町学舎から初めてだったかも？）。結果は第1部優勝！そうして第2部優勝の空手部との総合優勝かけて争いました。抜きつ抜かれつのスザマシイ戦いを繰り広げて、土木チームが勝ちました！ブラ



扇町北学舎正面（昭和38.1頃）：土木会報から



ボート祭にて（昭和37年頃）：土木会報から

“人”だけでなく“地球”に優しい環境空間の創造
 限りある資源をより良く活かし、次世代に明るい未来を



“ISO9001”・“ISO14001”・“ISO27001” 認証取得

本社 滋賀県近江八幡市安土町上豊浦 1030 番地
 TEL.(0748) 46-2336(代)
 支社 東北・関東・京都・大阪・西日本・山口

最近びびわれが(汗)

しがないコンクリート君



補修跡が浮いている様な(汗)

落橋するんじゃない？



構造力学 コンクリート工学
 グラウト調査
 PC 橋梁 FEM 解析
 真空法 補修設計

詳細調査をしましょう！
 補修設計をしますね！
 解析も行います！

最適な長寿命化計画を！

株式会社 CORE 技術研究所
 www.coreit.co.jp

大阪府（本社）
 東京都（東京支店）



扇町の理工学部北学舎（昭和33.11.19）：土木会報から

ポー。当然ながら観戦の方々も“良かった！いい試合だった！”と云って下さいました。そして私達は大川に飛び込み喜びに、水をかけ合い、肩を寄せ合いました！この伝統ある大イベントで、大阪市大に理工学部あり土木工学あり！の心意気を示した瞬間でした。この後の酒の美味しかったこと！若き日の思い出です。

次の年はこの組み合わせは空手にやられましたが、次次年度は勝って通算2勝1敗の勝越しとなりました。

「雲高く、背丈減って、膝(ひざ)笑い」この句は、某新聞社の“脳トレ川柳”入選作ですが、妙に気に入って！メモしたものです。

私は「早朝ウォーキング」を始め約10年になりますが、1234！1234！とリズムカルに歩いている積りが、ヨタヨたドッコイ！ヨタヨたドッコイ！となっているらしい！「お元気ですね～」と美しい女性（70位？）に声をかけられて、っと笑顔で挨拶のその女

性はどんどんと先に進んでいく、懸命に追いかけても追いつかない！何故？と、後ろから眺めると歩幅も歩数も全然違う、背の高さも違う、こちらは縮んでいるんや！あの川柳の通りや！やっと諦めの心境になる。

私達の学年は酉年が多い、今年はどうな年か？干支酉年の2017は丁酉

(ひのととり)です。丁(ひのと)は従来の主流がなお続く中新しい力が伸びて来るその幹を表す、酉(とり)は酒を醸造する醗酵を表し、熟する新しい力が溢れ出る、つまり希望の年と云えそうです。

私達の生まれた酉年1933から歴史を振り返ります。

- ①1933年(酉)には、国際連盟を脱退して、大東亜戦争(第2次世界大戦)へかじを切った。
- ②1945年には、終戦(敗北)、しかし復興のスピードは目覚ましく、
- ③1957年には、なべ底景気を支えたSONY(当時は東京通信工業)が世界最小のトランジスタラジオを発売した(前年に日ソ共同宣言、国連加盟決定)
- ④1969年には、アポロ11号の月面着陸や東名高速道路開通(前年にGNP世界第2位)、
- ④1981年には、中国残留日本人孤児初の来日、自動車生産台数1000万台で世界一、
- ⑤1993年には、政変あり細川護熙が首相に(前年に学校5日制スタート)
- ⑥2005年には、郵政民営化の大

相場があったと思えば、JR西日本脱線事故で107人死亡(拉致家族の蓮池・地村両夫妻の子供5人帰国、⑦2017年には、アメリカ大統領にドナルド・トランプ氏就任、日米首脳会談(安倍首相)、稀勢の里横綱に昇進、(前年に鳥取地震M=6.6)

この様になりました。さて、今年が後半醸造の出来がどの様になるでしょうか？スバラシイ年になるよう祈り、そして期待したいものです。最後になりましたが、市大扇町会はまだ生きていて、医学部・応用化学科・機械科・電気科・建築科・土木科の出身者で構成死しています。今年も5月吉日に会合の予定です。「老馬の智」を大切に！(完)

山との出会い、そして…

湊 勝比古
(昭和41年卒)



大学を卒業して以来50余年がたちました。我々昭和41年卒業生は高度成長の真ただ中、各自の道でそれなりの仕事をしてきたように思う。残念ながらすでに数人が鬼籍に入ったが、今はお互いに、年賀状の交換やたまの電話で連絡を取っている状況で、ほとんどの者が悠々




鴻池組

KONOIKE CONSTRUCTION CO.,LTD.


代表取締役社長 蔦田 守弘

〈本社〉
〒541-0057 大阪市中央区北久宝寺町3-6-1
TEL06(6245)6500



Mr.PENTA

その先の向こうへ
GOING FURTHER



五洋建設
GAIYOKU CONSTRUCTION CO.,LTD.

東京都文京区後楽 2-2-8
http://www.penta-ocean.co.jp

ワクワク乗
創りた



木曾駒ヶ岳にて

自適?の生活をしているように思う。

私自身振り返りみると、学生時代は剣道に熱中、社会人になってからは仕事人間。この間健康には大いに自信があったが、思いもよらず約25年前病気になる約1ヶ月間入院した。退院後、体力回復のため周辺の村落や里山を散歩するようになった。そうこうしているうちに、職場の仲間からハイキングに誘われて六甲山、愛宕山、金剛山、比良山などの近郊の山に登るようになった。

実を言うと、それまで私は「山登りのようにしんどいことは絶対しない」と思っていた。ところが、皮肉にも、山登りをしてから長年連れ添ってきた「腰痛」と別れることができたのである。経験のある方なら、この辛さから解放されることの快適さ、嬉しさをわかっていただけだと思う。「腰痛」がなくなると普段の生活に元気が出てくるし、仕事にも好結果をもたらす。これを逃す手はないということで山登りにのめり込むようになった。

初めての本格的登山は不安いっぱい参加した。辛抱して黙々として登るしんどさ、延々と下るときの足の辛さは強烈だった。ただ、大変天候に恵まれ、高山植物の女王と呼ばれるコマクサの群生にめぐり合い、間近に見る槍ヶ岳、穂高連峰の圧倒的な眺望、山小屋でのビール・

食事のうまさなど苦勞して登って初めてわかる素晴らしい感動を味わった。

その後、仕事を通じて知り合った仲間たちと、北は利尻山、南は屋久島の宮之浦岳、槍ヶ岳・剣岳・奥穂高岳などの日本アルプスの山々など日本百名山を目指すようになった。また、妻とも立山、久住山、開聞岳、北八ヶ岳などに一緒に登った。登頂した百名山が50座を越えた10年程前、山で転倒し、手首を骨折、2度にわたる手術をした。この頃から気持ちの上で何となく年を感じるようになり、あまり無理をしないように方向転換しようとしたが、やはり未練があるのか、近郊登山でトレーニングし、年に1回は3000m級の山に登ることを続けていた。しかし、昨年夏に農作業を手伝っていて高所から落下、腰椎を圧迫骨折、もういけません、高い山は諦めることにしました。

最近はおっぱら里山歩き、近郊登山、自然風景の水彩スケッチを楽しむ日々。また、マジックのサークルに参加し、年間30回程度ボランティアで老人会、子供会、老人ホームなどの施設を訪問している。さらに、新しい出会いを求めて男の料理教室へ参加。今年迎える後期高齢に備え、“人に好かれる老年”にいかにかソフトランディングするか、仲間の男性陣



仲間たちと南アルプス農鳥岳にて

の心象を観察させてもらっているところです。

共に学んだ学友は勿論、山を通じて得た友、サークル仲間との出会いは、私にとって何ものにも代えがたい大きな財産であり、今後とも永いお付き合いを願っています。

『卒業三十周年記念
同窓会』開催報告
金山 哲也
(昭和61年卒)

「いつの間にか」という表現が、一番シックリくるような気がしますが、昭和六十一年に大学を卒業した我々、昭和五十七年入学生も、卒業に要した期間に、若干のズレがある者も許容し、卒業後、三十年の年月が、経ちました。

そこで、この機会をとらまえて、重松君（大阪市大）、塩崎君（鹿島建設）が幹事となり、記念の同窓会を開催することにしました。

同窓会を開催するにあたり、先ず苦勞したのは、連絡先の確認でした。

古い名簿に加え、年賀状のやり取りや、仕事上でのつながりなどを伝手に、我々世代でも、普及しつつあるLineを活用し、連絡先の調査を行いました。

この調査の過程で、昭和五十七年には、三十八名が入学し、その後、三名が、途中で退学していたことが、入学記念【写真①】から明らかになりました。

この三十五名のうち数名は、留年の憂き目に合いましたが、別途、上の学年から、数名の補充(?)があり、四年後の昭和六十一年には、四十名で卒業したと

株式会社 修成建設コンサルタント
快適な国土をデザインする

代表取締役社長
八尾 博彦

事務所
兵庫・姫路・京都・
滋賀・福井・奈良・
和歌山・名古屋・三重

卒業生
八尾 博彦 土木工学科 S52
勝原 芳博 建築学科 S48
鐘 一明 土木工学専攻 H5
田村 容子 土木工学科 H11
長永久美 都市学科 H27

〒530-0055 大阪市北区野崎町7番8号 梅田パークビル 8F
TEL 06-6367-3800 <http://www.shusei.co.jp/>

大日本コンサルタント株式会社
NIPPON ENGINEERING CONSULTANTS CO., LTD.

<http://www.ne-con.co.jp>
海老江JCT・鋼管集成橋脚



昭和57年4月 入学記念



平成28年11月 卒業30周年



人をつなぐ、
街を結ぶ、
未来へ延びる。

信用と技術の
鉄 建
TEKKEN
<http://www.tekken.co.jp/>





研究室見学

言うことが、今更ながら、知るところとなりました。

各人への連絡は、研究室ごとに行いましたが、それなりの時間を掛けた後、三十七名から回答を得て、結果、【写真②】に示す二十八名が、同窓会に参加となりました。

なお、【写真②】は、入学記念写真と同じ工学部の中庭に、同窓会の参加者が、当時と同じ配置に並び、撮影したものです。こうして見比べてみると、三十年の時差を感じさせる写真になっています。

同窓会の会場については、卒業後も大学に残り、活躍中の重松君の計らいで、一次会を市大構内にある学術情報総合センターの屋上庭園で、また、二次会を北新地の居酒屋「暁」で、としました。

開催日については、気候的にも、また時期的にも集まり易い、平成二十八年十一月十二日（土曜日）の午後としました。

さて、いよいよ同窓会の当日、集合場所とした工学部前のピロティに懐かしい顔が、一人、二人、三人・・・と集まり始めました。三十年と言う年月を、誰もが、腹廻りの体型と頭髪の量の淋しさや

色の白さで、主張しながら、お互いに挨拶を交わし、一次会会場の学術情報総合センターの屋上庭園へと、移動しました。

参加者のほとんどが、卒業後に完成した、この綺麗な建物に入るのが初めてで、先ずはひと通り、建物の内部を探索し、屋上庭園でのアルコールとオードブルでの宴を、重松君の乾杯で始めました。

その後、暫しの歓談を経て、適度な咽ごしらえ、腹ごしらえが整った頃合いに、過去三十年間の報告会となりました。

ひと言で『三十年』と言っても、当然のことながら、皆それぞれ、さまざまな年月を歩んできており、何かと考えさせられた報告会となりました。

一次会が、お開きとなった後は、これも重松君の発案と案内で、かつての土木工学科研究室の見学会を急遽、行いました【写真③】。

建物も実験装置もリニューアルされ、浦島太郎状態か（？）と予想していましたが、なぜか当時のままのところも、残っており、少しホッできた瞬間でもありました。

この後は、場所を北新地の二次会会場に移し、また、二次会からの参加者も、

加わっての宴となりました。

酔いも廻り始める頃になると、大学時代の思い出話し、例えば、三笠先生の土質力学や中井先生の振動工学は、単位取得が危うかったとか、真嶋先生のコンクリート実験や東田先生の土質実験は、レポートを幾度も突き返されたとかなど、三回生までの、数々の試練談や、研究室に配属となった後の研究での苦労や失敗談、果ては、その研究室でのコンパや旅行での秘話などが飛び交い、笑い声が絶えない宴となりました【写真④】。

そんな訳で、二次会については、思い出話しが尽きず、二時間の飲み放題では、物足りないとのことで、時間の延長が、必要となりましたが、そこは、人生が半世紀を超える年代となり、足元が確かなうちに『逍遙歌 桜花爛漫』を全員で合唱し、『卒業 三十周年記念同窓会』をお開きにしました。



二次会

思い返せば20年、
さらにこれから
堺 広 範
(平成8年卒)

早いもので、社会人になって20年が経ちました。最近では白髪が目立ち始め、手

 戸田建設
www.toda.co.jp



TODA Group Global Vision

“喜び”を実現する企業グループ

新しい景色を共に見よう。
好きにやれ、責任は会社が取ります！



KOKUDO

日本国土開発 株式会社

元もこれまでの距離では見えにくくなってきました。さらに、深酒した翌朝は、身体が思うように動いてくれません。幸い、大きな病気にかかっていませんが、日常の健康管理がとても大切だと実感しています。

平成8年度に大阪府に入庁後、まちづくり・道路建設・震災復興・JICA専門家として海外赴任など多岐にわたって従事してきました。この20年間で、一番かわりが長いのは土地区画整理事業手法でのまちづくりです。特に貴重な体験であったのは、平成19年から21年にJICA専門家としてタイ王国、内務省公共事業及び地方都市計画局に赴任し、土地区画整理事業手法の技術指導をしたことです。ちょうどこの時は、生まれたての息子と3歳の娘ともども家族で異国文化に触れながら生活を送りました。近年日本では滅多にかからないシラミや食中毒も経験しました。小さい子供を連れての赴任では、親として気の使うことがたくさんあ

りましたが、これらも含めてとても貴重な経験でした。海外赴任を通じて、家族全員が、タイ国・タイ人がとても好きになり、愛着を持てるようになりました。帰国後の今でも、機会があるたびにタイを再訪問し、当時のスタッフと再会しています。

また業務においても、風習や文化の異なる地で、日本独自のまちづくり手法を日本式のまま技術移転しても受け入れられません。土地区画整理事業の根本性を伝え、どのようにタイ式にアレンジできるかを模索しながら業務を行いました。さらに、現地での指導という観点で、タイ人気質を十分に理解し、業務を行う必要がありました。特に、個人での実績が評価される環境のなかで、技術移転後に持続可能な業務遂行のため、専門技術や知識等をスタッフで共有化していくことには苦労しました。結果として、異国の地でも業務を遂行するためには、専門的技術の鍛錬とともに、良好な人間関係の

構築が必要だと再認識しました。

今年の平成29年4月からは、箕面市及び茨木市に跨る彩都（国際文化公園都市）のまちづくり推進のための調整業務に従事することになりました。彩都は街びらきしてから10年が経過し、居住人口も14,000人を超え、いろいろな会社が立地し、着実に成長を遂げています。自分も本業務において20年ぶりに再会した方や多数の民間企業と一緒に仕事ができる環境になり、ものづくり・まちづくりにおいて、これまで以上に人のつながりの大切さを実感しています。これまでは、先輩方々の計画を実現していくことに全うしてきましたが、これからは環境に配慮し、時代ニーズにあった、さらに進歩した街の計画を立案していく立場にあると思います。そのためには、多種多様な方々の意見を取り入れ、広角的視野からの検討が必要になると考えています。

先日、日野教授の最終講義に出席した時も、様々な業種の先輩方にお会いし、意見交換ができました。また、共に学生時代を過ごした方々とも久しぶりに再会し、近況報告をし合いました。こういった繋がりから、これからの人生におけるきっかけが生まれてくるのではないかと考えています。最後に、今回、本会報に掲載させていただくことを利用して、同窓会の呼びかけをさせていただきたいと思います。平成8年度に卒業された皆様で、この会報をお読みになられた方は、以下のアドレスに連絡をください。できれば年末ぐらいの開催を予定したいと思っています。久しぶりの再会を楽しみにしています。

< hiro.8.sakai@gmail.com >



タイ国ランパン県ランパン市土地区画整理事業起工式で市長と（2009年3月10日）

NEWJEC
総合建設コンサルタント

自然と人を技術で結ぶ。

株式会社 ニュージェック

■建設コンサルタント ■一級建築士事務所 ■測量 ■地質調査 ■計量証明事業者
■ISO9001, 14001, 27001 (大阪本社)

○大阪本社 大阪市北区本庄東 2-3-20 TEL. 06-6374-4901
○東京本社 東京都江東区亀戸 1-5-7 TEL. 03-5628-7201
○支店 北海道・東北・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国・九州・沖縄
<http://www.newjec.co.jp>

Technology & Design Company Plantec

plantec

50th Anniversary

プランテックは、独自のSLA燃焼技術で新たなエネルギーソリューションを生み出し、焼却プラント建設の最前線から地球環境を変えていくエンジニア集団です。

地球環境へのエンジニアリングチャレンジャー

株式会社 **プランテック**
www.plantec-kk.co.jp

〒550-0003 大阪市西区京町堀1丁目6番17号
TEL: 06-6448-2200 (代表)
MAIL: infopt@plantec-kk.co.jp

卒業して10年経過

中 藤 香 織
(平成18年卒)



私は、環境都市工学科を平成18年に卒業しました旧姓 中藤です。卒業して10年経過したとは、早いものですね。卒業後は、堺市に就職し、上下水道局に配属となり、ずっと水道に関わる仕事に携わっています。今回は、私の仕事紹介を通して、水道事業の面白さをお伝えできるようお話ができたらいいなと思います。

最初に配属された課での仕事では、水道工事の設計・積算、現場監督という一連の工事に携わりました。毎日のように作業着、ヘルメット、安全靴、軍手といった格好で、工事現場へ。仕事し初めの私には新鮮でした。工事中は、断水したり、赤水が出たり、騒音など市民の方から苦情をいただくこともありました。そんな時は、出来るだけ直接お会いしてご説明やお詫びさせていただくことを心掛けていました。最初はすごく怒っていらっしゃっても、何度か、丁寧にお話していくうちに、工事についてご理解いただけたときは、良かった～と思いました。また、工事現場を歩いていると「お仕事

お疲れ様」と声をかけてくださる市民の方もいらっしゃって、その時は、とっても嬉しい気持ちになったことを覚えています。水道管は、地中に埋設されているため工事が完了しても出来上がったものが建物や道路のように目に見えるわけではありませんが、自分が担当した工事現場の道を通ると、その当時の工事のことを懐かしく感じたりしています。1度更新したら100年近くは活躍し続けるであろう水道管の工事に携われていることに、とても誇りとやりがいを感じています。

次に配属された課では、水道管の更新工事の計画策定をしていました。現場から、デスクワークへ。ここでは、水道事業の現状や将来構想など、全体像を知ることができました。水道の普及率はほぼ100%です。これからは、新しく水道管を布設して拡張していくのではなく、古くなっていく水道管を維持管理・更新していく時代となっています。更新には多額の費用と時間がかかります。しかしながら、水道事業を取り巻く環境は厳しく、節水意識や節水機器の普及、人口の減少によって給水量が毎年約1%減少しており、料金収入が減少しています。限られた予算の中で、効率的に更新していくことが求められており、その更新計画を立てる仕事に携われることは、責任も重たいですが、非常に勉強になりました。

また、数年前ですが、計画の仕事のな

かで、大学時代の研究室の先生であった貫上先生とご一緒させていただく機会がありました。有識者の方にご意見をいただくという仕事内容でしたが、卒業後につながりが持てるということは良かったです。今年度も、私が直接の担当者ではありませんが、私の所属する部署の仕事でも関わりがあるようで、機会があれば、またお会いしてゆっくりとお話できたらと思います。

その次に配属された課では、経営状況について現状を把握し、将来を予測する仕事をしました。技術職も経営感覚を持って、経営について知らなければならぬということでの配属だったようですが、大学時代に苦手な無理～と思った一般教養の簿記、、、もっと勉強しておけば良かったと後悔です。

まだまだ、仕事中は、勉強しなければと思わされることばかり。本を読んでの知識もそうですが、実際に目で見て学ぶこと、本当に多いです。これからの水道事業の安全安心を守っていけるよう、現場と計画等いろいろと経験しながら自分も成長していけたらと思います。また、これからの10年も、やりがいを感じられるよう日々頑張ります。

みなさまと、お仕事や同窓会など、お会いする機会がありましたら、よろしくお願ひ致します。



堺市上下水道局庁舎とマスコットキャラクター「すいちゃん」

見直します!

新規企画します!

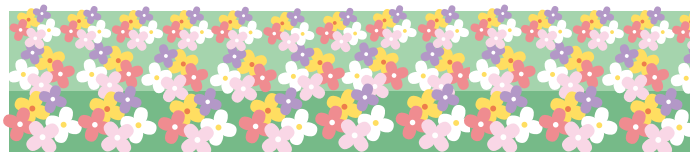
学会関係・報告書・博士論文

大学取引50年の実績

BUNSEIDO

株式会社 文成堂

〒547-0048 大阪市平野区平野馬場2-2-11 TEL: 06-6700-2211
info@bunseido.com http://www.bunseido.com/



事務局より

■ホームページについて

平成27年6月より、都市会のホームページが稼働しています。

URLは <http://OCU-toshi.com> です。

スマートフォンからもアクセスできます。

都市会会報のバックナンバー、旧土木会の「土木会通信」や「リレー随筆」のバックナンバーもご覧いただけます。旧交を深めるとともに新たな交流の場として、「ふれあい掲示板」をご利用ください。

不明な点やご要望、お問い合わせは、都市会事務局のメール alumni@urban.eng.osaka-cu.ac.jp にてお寄せください。



■会員名簿について

都市会の会員は平成29年4月1日現在、正会員2,374名、特別会員139名、学生会員321名、総数2,834名となっています。

正会員は、今年度新たに37名の新会員を迎え2,374名となりましたが、その内約300名の住所が不明となっております。

大学各研究室の先生方や各学年の評議員の皆様方及び勤務先の方々のご協力も得まして、相当数の会員の名簿が整備できました。調査にご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。

今後の会員情報充実のため、勤務先や自宅住所などの変更がございましたら、同封のはがきやメール・ファックスなどで事務局までご連絡をお願いいたします。

■会費納入のお願い

平成28年度では会費を納入頂いた方は474名で会費額は1,285,000円でした。会費納入の皆様方には篤くお礼申し上げます。

一昨年（平成27年度）の納入状況は、納入者453名、会費額は1,407,000円でした。納入者が21名増えたにも係らず会費納入額は122,000円の減額となってしまいました。また、終身会員を除く正会員は2,078名ですので納入率は23%となりました。このような状態が続きますと都市会の活動・運営に支障を来して参ります。年会費は2,000円ですが、積みもり積もると多額な金額になってしまいますので、お早めの納入をお願いします。また多額になった場合、分割での納入も結構です。（そのために納入書の金額欄は空白にしております）

■企画募集

都市会が発足して3年となりました。新しい同窓会の活動を考えて行かなければならないと思います。そこで、会員相互の研鑽と親睦を図るための企画を広く募集します。都市会からは予算を計上し企画に対する支援を行います。

会員皆様からのご意見を頂きたいと存じます。従来にない新しい会員交流会や学生支援などの具体的な提案があればどしどし事務局へ下記のメールやファックスにてご連絡くださるようお願い申し上げます。

都市会のメールアドレス：

alumni@urban.eng.osaka-cu.ac.jp

都市会のファックス : (06) 6696-2965

平成29年度都市会総会・懇親会のお知らせ

平成29年度都市会 評議員会・総会・懇親会を次の要領にて開催致します。ご多忙とは存じますが、都市会の発展と活性化のため多数の方々のご参加をお願い致します。本年は会場が下記のヴィアールに変わっております。

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| (1) 日 時 | 平成29年7月14日 (金) |
| | 評議員会 午後6:00~6:30 |
| | 総 会 午後6:30~7:00 |
| | 懇 親 会 午後7:00~9:00 |
| (2) 場 所 | ヴィアール大阪 |
| | 評議員会・総会は2階「パールルーム」 |
| | 懇親会は2階「クリスタルルーム」 |
| | TEL: 06-4705-2411 (代) 大阪市中央区安土町3-1-3 |
| | 地下鉄御堂筋線「本町駅」出口①・③より徒歩5分 |
| (3) 会 費 | 7,000円 |

